

平成 30 年度第 3 回「医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会」を開催しました！

平成 30 年度第 3 回『医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会』を平成 30 年 12 月 19 日（水）に、ぴゅあ総合大研修室にて開催しました。甲府市東地域包括支援センター、甲府市南東地域包括支援センター及び甲府市中央地域包括支援センターの支援エリアに所在する医療機関、介護保険サービス提供事業所等を中心に、174 名の方にご参加いただきました。



進行役
高山 理恵氏

交流会の進行を甲府市中央地域包括支援センターの高山 理恵氏、話題提供を山梨県中北保健福祉事務所の小坪 真由美氏、事例提供を甲府市南東地域包括支援センターの鶴田 ゆかり氏に務めていただき交流会を進めました。

話題提供では、今年度の共通事項として『介護保険法改正からみる多職種連携のあり方』について、診療報酬と介護報酬の同時改定による医療と介護の連携強化と相互理解、多職種間の横のつながりと同時に同一職種間のつながりを意識した情報共有の大切さをお伝えいただきました。



話題提供者
小坪 真由美氏

その後の座談会では、先の話題提供の『情報共有』を踏まえた事例を通じ、多職種の連携について真剣に考えました。

事例の対象者に対し、住み慣れた地域の中で暮らし続けることができる支援を行うにあたり、どのような情報が欲しいのか、また、その情報をどの職種からもらうことができるのか、参加者の皆さんで活発に意見交換をしました。

座談会終了後、各グループで行われた意見交換の内容について発表していただきました。



事例提供者
鶴田 ゆかり氏

発表者からは、「顔合わせや電話などを通じて、医師と多職種が直接、情報を共有し、お互いの職種の専門性が理解できるよう、積極的に取り組んでいきたい」という意見や、「本人の生活状況を知る場合、理学療法士の立場を活かし、リハビリテーション職による訪問を行って多職種と情報共有することで、より本人の生活に合った支援を実施することが出来る」という意見など、『情報共有』『多職種連携』をキーワードとした感想や意見を多くいただきました。



その後、参加された医師・歯科医師・看護師から、交流会の講評をいただきました。その中でも医師からは「顔の見える関係づくりを目的とした交流会に、200 名近い多くの専門職が集まったことに驚いている」「在宅医療と介護について、それぞれの職種が考え、熱意を持って意見交換する様子を肌で感じる事ができた」「今後、高齢化はますます進行するが、『甲府市は多職種の連携によって、安心して在宅生活を支えることができます』と言えるよう、皆さんと一緒に医療と介護の連携に取り組んでいきたい」という多職種連携への想いが語られ、交流会は盛会のうちに終了しました。

交流会の様子を
掲載します！

